

あとがき

令和三年(二〇二二)春の叙勲で、糸賀茂男先生が旭日双光章を受章されました。本書は、栄えあるご受勲を記念して編まれた論文集です。叙勲の報に接し、各方面の皆さんから祝賀会を開催しようとのご提案がありました。残念ながらコロナ禍で見送らざるを得ませんでしたが、記念論文集の謹呈について多くの賛同がありました。刊行計画を進める中で、糸賀先生より「愚生記念は最小限にとどめ皆様の論陣を張る一書に」とのご意向が示され、関係者で意見交換を重ねた結果、「糸賀茂男編」による中世史関係論集として出版することになりました。

本書では、日ごろより先生から学恩や知遇を頂戴している面々が執筆しています。執筆者一覧をご覧いただければ、出身大学や所属機関等もさまざまであり、先生のご活躍の幅広さが一目瞭然です。ご家庭やお仕事の都合で止む無く執筆を辞退された方もいますが、刊行作業の過程で、コロナ禍で疎遠となっていた研究者相互の音信が復活したことは大きな意義であり、糸賀先生もこうした繋がりが、今後も維持、継続されることを期待されています。

糸賀先生の業績については「糸賀茂男さんのあゆみと仕事」(小森正明)で紹介されています。ご活躍は多岐に及んでおり、全てを語りつくすことは困難ですが、昨年まで約二十四年間にわたる茨城県文化財保護審議会の委員および会長としての文化財保護行政に対する多大なるご貢献について、一言付記しておきたいと思っています。

糸賀先生は、文化財指定のための調査および文化財保存・活用ための助言・指導などのために県内全域を奔走されました。自ら現地に足を運ばれ調査を指揮されるだけでなく、所蔵者はじめ現地の関係者の皆様に対しても、資料を用意し平易な解説をされるなど、お気遣いも欠かされませんでした。地域史研究に係るさまざまな視点や史料の活用

についてだけでなく、調査時に大切にすべき細やかな配慮についてもご教示をいただきました。

さて、本書の編集にあたって、付録として「茨城県中世史文献目録 1965-2023: 3」(山縣創明編)を作成いたしました。当初の見込みより文献数が遙かに多く、紙体で掲載すると一二〇ページにも及ぶことが判明いたしました。文献の取捨選択はしないことを前提に、紙媒体で掲載する、CD・ROM化して付録とする、QRコードを付してデータにリンクさせるなど、さまざまな提示方法を検討いたしました。最終的に糸賀先生のご判断をいただき、QRコードによる公開とすることにいたしました。

現在、さまざまな研究分野でペーパーレス化、デジタル化が進展しています。紙媒体の利便性は捨てがたいものがありますが、今後の研究者や学生の皆様は、新たな環境の中で研究手法を身につけ、日々の研究に取り組んでいくことになると思います。「茨城県中世史文献目録」は、記念論集である本書刊行の大きな成果であり、この目録をより多くの皆様に今後も継続して活用してもらうことが重要であると考えました。この目録のExcelデータは、本書のQRコードから閲覧できます(リンク先は、岩田書院、茨城県立歴史館、桜川市伝承館のホームページ)。目録データ公開について、関係者の皆様のご理解、ご協力に深く感謝いたします。なお、本目録は、以後、適宜更新していくことも考えています。

事務局の不幸により、叙勲から刊行までに三年以上の時を経過してしまいました。伏してお詫びする次第です。なお、岩田書院の岩田博氏には、計画から刊行にいたるまで大変お世話になりました。記して謝意を表する次第です。